

「デジタル放送研究会の成果と今後の展開」

デジタル放送研究会代表 藤吉洋一郎（日本災害情報学会副会長、大妻女子大学教授）

本研究会はデジタル放送の普及によって広がる情報伝達の可能性に着眼し、災害情報の伝達に役立てようと会員に参加を募って始めた調査研究会である。放送文化基金からの三次にわたる活動資金の支援を得て、専門家を招いての勉強会や見学会、随時発生した災害現場への実地調査を行うなど、現場主義、実践主義的な研究アプローチを基本とするとともに、調査研究の結果は毎次の発表会と成果報告にまとめたほか、放送文化基金主催の報告会や報告書にも反映させるなど、学会や社会に成果を還元できるスタンスを重視してきた。そして、本学会の特徴である極めて学際的なメンバーが集まったことにより、多角的な視点からの検討ができたと自負している。

一次の研究会の成果としては、データ放送などデジタル放送の可能性が防災機関から放送局への情報伝達がネックになっており、これを克服するためには、XML方式の採用など、デジタル時代の情報伝達システムの整備が急務であることを提言した。

さらに二次の研究会では、調査研究の対象を通信の分野にも広げ、韓国まで調査の足を伸ばして、放送と通信の連携や棲み分けで可能になった新たな試みを追った。その結果、災害情報の伝達にはさまざまな可能性が広がってきた反面、文字通りマルチメディア、つまりメディアが多くなりすぎて情報混乱に陥りがちになっていることがわかった。このため例えばテレビのデジタル放送では、表の放送の中で関連したデータ放送を随時案内することが必要となるし、また放送と通信の間でも、知りたい情報に早く到達できるように道案内するなど、それぞれのおかれた立場や知りたい情報の中味によって、どのような手段で情報を入手するのが最適なのか、その都度、道案内をするナビゲーターがそれぞれのメディアに求められていることを提言した。

さらにこれからの1年間取り組む三次の研究会では、この災害情報ナビゲーションのあり方の検討をも視野に入れて、調査研究を進めたいと考えている。